

全国協議会 ニュース

発行所
全国骨髄バンク
推進連絡協議会
〒130 東京都墨田区
東駒形1-16-7
第1ホークプラザ303号
TEL.(03)3625-7307
発行責任者
運営委員長 渡辺孝一

中郵便振替口座中
00150-4-15754
(変更になりました。御注意を)
中銀行口座中
さくら銀行 新宿支店
普通 5666655

さらに削られた七年度予算案 — 国会審議で積み増しを —

昨年末、平成七年度政府予算案の内示がありました。骨髄移植対策の内訳は表の通りとなっています。

全国協議会としては、昨秋の厚生省概算要求に対して、あまりにも少なすぎるとの考えを表明しましたが、予算案ではさらに削られています。

全体としての額は四億九千四百百万円で、前年比七千万円のアップとなっていますが、上昇額の大半は日赤の検査費用と保健所登録費用の平年度化によるもので、財団への補助金はわずかに一千万円の積み上げしかありません。

無菌室整備に二百億円

また、厚生省健康政策局所管の予算(案)で、骨髄移植施設で無菌室を整備する際の国庫補助金として他の施設整備も含む二百億円のメニュー項目として計上されています。これは一室あたり六千二百百万円に、国と都道府県と事業者が三分の一ずつ負担するもので、全国協議会の署名運動の一部が実ったものです。

予算成立後に実施要項が明らかになりますが、この補助金を使って無菌室を整備しようという医療機関が手を上げなければ意味がありません。しかもそれは非血縁移植の行える財団認定施設であることも必要です。

また、厚生省健康政策局所管の予算(案)で、骨髄移植施設で無菌室を整備する際の国庫補助金として他の施設整備も含む二百億円のメニュー項目として計上されています。これは一室あたり六千二百百万円に、国と都道府県と事業者が三分の一ずつ負担するもので、全国協議会の署名運動の一部が実ったものです。

予算成立後に実施要項が明らかになりますが、この補助金を使って無菌室を整備しようという医療機関が手を上げなければ意味がありません。しかもそれは非血縁移植の行える財団認定施設であることも必要です。

また、厚生省健康政策局所管の予算(案)で、骨髄移植施設で無菌室を整備する際の国庫補助金として他の施設整備も含む二百億円のメニュー項目として計上されています。これは一室あたり六千二百百万円に、国と都道府県と事業者が三分の一ずつ負担するもので、全国協議会の署名運動の一部が実ったものです。

予算成立後に実施要項が明らかになりますが、この補助金を使って無菌室を整備しようという医療機関が手を上げなければ意味がありません。しかもそれは非血縁移植の行える財団認定施設であることも必要です。

事項	(単位:千円)		
	平成6年度 予算額	平成7年度 当初内示額	平成7年度 概算要求額
骨髄移植対策 (総額)	424,067	494,811	595,689
(本省経費)			
1. 骨髄移植推進費	2,998	2,662	2,662
(骨髄移植推進財団に対する補助)			
2. 骨髄提供者確保事業推進費	106,736	117,507	130,513
(1)普及啓発費	21,506	17,988	22,219
(2)各種委員会経費	14,971	15,052	15,052
(3)コーディネーター活動費	37,661	37,999	37,999
(4)コーディネーター研修費	1,663	1,665	1,665
(5)中央コーディネーター総括責任者等設置費	19,786	33,624	38,159
(6)ブロックセンター経費	0	-	4,240
(7)骨髄バンク推進対策事業費	11,149	11,179	11,179
(日本赤十字社に対する補助)			
3. 骨髄データバンク登録費	233,604	265,534	350,406
(都道府県に対する補助)			
4. 骨髄ドナー登録受付業務費	30,729	62,108	62,108
(研究者)			
5. 骨髄移植調査研究費	50,000	47,000	50,000

皆様のご協力のもと、全国骨髄バンク推進連絡協議会も設立五周年を迎えることができました。それを記念して今年四月、名古屋にて全国骨髄バンク推進連絡協議会設立五周年事業を開催するはこびとなりました。

現在愛知の会がその準備を進めています。

一、オープニング企画
日時：四月九日(日)
会場：星ヶ丘P&Sスケール トリンク
〈内容〉アイスショー、ハンドベル演奏、聖歌合唱、音楽隊演奏等

二、骨髄バンクパネル展
日時：四月十日(月) 十五日(土)
会場：栄セントラルパーク
〈内容〉全国のボランティア活動、世界の骨髄バンク
三、メイン企画(記念式典・講演会)
日時：四月十六日(日)
会場：テレビアホール

第一部 ● 記念式典
● 講演会
中村勤九郎氏
● 全国協議会代表者会議

第二部 ● 以上のような内容を企画して決まり次第広報して行きたいとおもいますので、より多くの方のご協力ご参加をお願いいたします。

設立5周年記念事業 4月名古屋で開催

骨髄バンクの最新情報をお知らせする——骨髄バンクNOW

☆二次検査応諾率78%に
昨年5月、ドナーの二次検査応諾率が、7割を割り込んでいましたが、血液センターの体制確立と、ニュースレター送付による効果により、年末の集計では、二次検査の応諾率も78%に達し、有効二次検査実施登録者数が34,105人となっています。

☆財団へのドナー登録問い合わせ件数が回復
まだ、新規ドナー登録者数の伸び悩みはありますが、公共広告機構のキャンペーンにより、多少、明るい兆しが見えてきました。

年が明け、1日150~200件とますますのスタートです。

☆富山、山形でも「骨髄バンク支援コンサート」予定
昨年9月の東京での支援コンサートに続き、富山市、山形市でもコーラスを主体にしたコンサートが開かれます。

「富山室内合唱コンサート」
1月29日(日)北日本新聞ホール(富山市)
「あったかい手コンサート」
2月12日(日)山形市中央公民館ホール
開演はいつでも午後1時30分
入場無料

[12月末現在検査済ドナー登録者 58,713人]
[12月末現在患者登録者 2,629人]
[12月末現在移植件数 269例]
(12月末現在)

★骨髄バンクへのお問い合わせは★
フリーダイヤル0120-377-465

中央骨髄データセンター登録状況

登録内容	人数
1次検査実施済登録者数	61,630
有効1次検査実施済登録者数	58,713
2次検査依頼登録者数(1次適合)	44,546
有効2次検査実施済登録者数	34,105
登録受け付け患者数	2,630
検査対象患者数	1,137
2次適合患者数	1,645
2次適合登録者数	5,723

平成6年12末日現在

ドナー登録者の男女別登録数(総登録数の内訳)

女性	32,023 (51.96%)	男性	29,607 (48.04%)
----	-----------------	----	-----------------

ドナー登録者の年代別登録数(総登録数の内訳)

20歳代	27,139 (44%)	30歳代	21,771 (35%)	40歳代(50歳含む)	12,720 (21%)
------	--------------	------	--------------	-------------	--------------

患者とドナー適合状況・移植件数の推移

年別	患者登録	適合患者数(%)	適合ドナー(%)	移植件数
92年	678	228(33.6%)	578(3.5%)	0
93年	858	852(55.5%)	2,461(6.7%)	86
94年	1,093	1,645(62.6%)	5,723(9.3%)	183
累計	2,629	1,645(62.6%)	5,723(9.3%)	269

注) 患者登録数・移植件数は年別の件数統計。適合患者数・適合ドナーは累計適合数。なお、適合患者(%)は、累計患者登録数に対する%を表示。適合ドナー(%)は、累計ドナー登録者に対する%を表示。

NTT

言葉よりも深く、強く、
わかりあえる瞬間があります。
伝えあう喜びと通じあえる感動を
NTTはあなたとともに広げていきたい。

心の響きが
聞こえてきます。

全国協議会主催 チャリティーゴルフ 大会開催へ

きたる3月2日(木)に神奈川県厚木国際カントリー倶楽部で、骨髄バンクチャリティーゴルフ大会が開かれます。現在、神奈川骨髄移植を考へる会が中心となって準備を進めています。この大会はより広い層の市民に骨髄バンクを理解してもらうことが目的です。

参加者二百名という大きなコンベンションになりますが、海部会長をはじめ各界の方が参加する予定で、チャリティーオークションなども行なわれます。財団に加え、読売新聞社と日本テレビも後援して開催されます。現在参加者を募集中ですが、希望者は全国協議会事務局へお問い合わせください。

大谷さん 「朝日社会福祉賞」 に

朝日新聞社が贈る九四年度の「朝日社会福祉賞」に、副委員長の大谷貴子さんが選ばれました。受賞理由は、東海バンクの設立と引き続き全国規模の公的バンクづくりへの貢献で、今年度の最年少受賞者とのこと。贈呈式は一月三十日に朝日新聞東京本社で行なわれます。

各地のたより

各地の たより

愛媛
ジャパンタイムズの記事を英語教材に

昨年十二月十七日付「ジャパンタイムズ」に、大谷貴子さんの写真入りで、日本の骨髄バンクの現状を伝える大きな記事が載りました。これまでの経過や今後への展望が要領よくまとめられています。愛媛大学で教育に携わっている私は、これ幸いと、この記事を切り貼りして、「虹を追い掛けて」という題のB4版一面の自家製新聞を作り、授業のなかで使いました。教育目的の限り、ご希望の枚数だけ無料でコピーをお譲りします。

〒701-01松山市白水台四一一一、三上修平まで。

MAHO ネット21
真帆ちゃん
移植一歳に
あらためて



真帆さんのテレホンカード

移植から一年
私も移植一歳になりました
あらためて
生きるチャンスを下さったドナーの方に骨髄バンクの設立と拡大に奔走された方々に
そして
発病以来、温かく励まし続けて下さった皆様
ここに、ありがとうございます
一九九四年十二月 清水真帆

長野
走れ!!骨髄バンク
PRステッカー

日常の生活の中で、ごく何気なく骨髄バンクをPRできる方

Donor drive gaining momentum Bone marrow bank gives hope to blood disease patients

By KAORUKO AITA
Staff writer
Despite progress made in recent years in treating patients with blood diseases, much still needs to be done to improve the situation, according to Takako Otani, a former leukemia patient and founder of Japan's first bone marrow bank.

Otani, 33, a spokeswoman for the Japan Marrow Transplant Foundation, spends almost every day promoting the campaign for bone marrow donations.

"I have traveled across the nation making speeches and meeting people to call for more donor registration," Otani said. "I would like people to understand that they may have the opportunity to save other people's lives if they donate bone marrow for patients with severe blood diseases."

The foundation will mark its third anniversary Sunday. As of November, 262 bone marrow transplants between unrelated people had been performed through the foundation, according to Yuichi Yamazaki of the foundation.

"The survival rate of the recipients is about 70 percent. I think the campaign has been going well so far," Otani said.

A bone marrow transplant is the most effective treatment for the majority of patients with fatal blood diseases, including leukemia and hypoplastic anemia. It is an established treatment with a 25-year history.

In the treatment, 800 cc to 1,000 cc of bone marrow is taken from the donor's hip bone by a needle and infused into one of the recipient's veins.

In order to conduct a marrow transplant, the type of HLA, or human leukocyte antigen, must be matched between donor and recipient.

Among brothers and sisters of the same parents, the chance of having the same HLA type is 25 percent.

But among people not related by blood, the chance is between one in several hundred and one in several 10 thousand, the foundation says.

According to the foundation, about 6,000 people develop serious blood diseases each year in Japan.

However, only 25 percent to 30 percent of all patients can find donors among blood-related people, according to ex-



Takako Otani

Taiwan, gathered to exchange information on bone marrow bank activities and to promote international networking.

"The Japanese bank currently has the largest number of candidates among Asian banks. We wish to make an international contribution in the field," Yamazaki said.

Despite such progress, Yamazaki says a shortage of government funding remains a major stumbling block to the activities of the foundation.

"The foundation is affiliated with the Health and Welfare Ministry, but the government subsidy of about ¥106 million covered only 16 percent of the foundation's budget for fiscal 1994," Otani said, adding that about half of the cost has been covered by donations.

"It is really hard to raise donations during the recession," she said.

This year, the foundation started training people to coordinate bone marrow treatments by liaising between donors and patients. Currently, physicians handle the coordination work, Okamoto said.

"Many lives could have been saved if we had had a better coordination system. This could also have shortened the waiting period for patients," he said.

In the past three years, the number of patients who successfully found potential donors but died before transplant surgery was carried out is estimated to have reached about 400, according to Yamazaki.

Those who underwent bone marrow transplants through the bank had to wait between 130 and 716 days from registration to the transplant. In addition to the difficulty of finding the donor, such time-consuming procedures as checking the health conditions of both sides and getting final approval from the people concerned, as well as the chronic shortage in coordinators who help arrange such work, are often cited as reasons for the delay.

"All of the coordinators are working on a voluntary basis without pay from the government," Yamazaki said. "It is the government that should take responsibility for running the foundation to save patients' lives, not volunteers."

知新聞に折り込み紙を入れ、一般の方にもPRしました。テレビ局二社と朝日新聞の子告報道もありました。

当日、高知放送がテレビで、また翌日の高知新聞が県下に報道しましたので、県民の関心は深まったと思います。

講師は高知医大の内科学、愛媛県立中央病院の骨髄移植経験豊かな医師と調整医師の三人の経験がありました。活発な質問が続出して、とても印象的でした。



走れ!!ステッカー...どこかできっと誰かが見てる。

高知
三回目のシンポジウム

高知市から特急で二時間という遠隔の中村保健所が、平成六年十二月から骨髄提供登録業務を開始することになりました。

そこで、十二月十一日に中村市で、骨髄移植シンポジウムを開催しました。

中村市のある幡多地区の医師、医療関係者の生徒、ライオンズクラブ会員及び中村市役所にプログラムを発送しました。高



熊本
大盛況、彩ちゃんの贈り物展

一月三日、九日熊本岩田屋デパートにて「あやちゃんの贈り物展」をテレビ熊本の共催で行いました。総入場者数二千五百五十名で、TKU、NHK、RKKのテレビ三社と熊日、毎日、読売、西日本の新聞四社にて報道されました。準備した画集百三十冊は完売し、バンク関連の本も七十六冊売れ、本などの益金十二万五千五百五十二円は九州骨髄バンク、募金など六万

法として、ステッカーを活用して三年ほど、これに目を止めてくれた信州ジャスコさんが、「ステッカーを貼るのならばすぐに無理なくできるから...」と、社用車約百四十台にべたべた貼ってくださいました。

「知り合いのタクシース会社に声をかけたらOKです。百台のタクシースに貼ってもらいます。」仲間の弾んだ声、しばらくしたらもつとうれしそうに、「どうも長野県下五百台のタクシースに貼ってもらえそう...」

無理せず、楽しく、真剣に...がモットーのつばさの会ですが、こんなに無理なくステッカーの輪が広がっていくと、人間っていいね...って楽しくなります。



熊本
大盛況、彩ちゃんの贈り物展

一月三日、九日熊本岩田屋デパートにて「あやちゃんの贈り物展」をテレビ熊本の共催で行いました。総入場者数二千五百五十名で、TKU、NHK、RKKのテレビ三社と熊日、毎日、読売、西日本の新聞四社にて報道されました。準備した画集百三十冊は完売し、バンク関連の本も七十六冊売れ、本などの益金十二万五千五百五十二円は九州骨髄バンク、募金など六万

頭痛のタネ、肩の重荷、首がまわらない、不景気な顔、足の引っぱりあい、勇み足、骨肉の争い、明日胃カメラ、プレッシャー、取り越し苦労、空まわり、板バサミ、ムカムカ、イライラ、モヤモヤ、ムシャクシャ、ギクシャク、セクハラ、未練タラタラ、内気、エッチ、良心の呵責、永すぎた春、单身赴任、親子の断絶、理由なき反抗、五里霧中、四面楚歌、諸行無常、煩惱、出来心、退屈、理想と現実のギャップ、失意のどん底、お先まつ暗、不吉な予感、気のせい、ツキがない、楽しくないでお悩みの方に、フジテレビ。

フジテレビ

連合通信社

白血病治療

きょうから明日へ

秒進分歩する白血病治療
第一線の医師が選択する治療法は...
日本の白血病治療の全体像を紹介する
最新情報 二、七〇〇円(送料三二〇円)

日本つばさ協会編
〒105 東京都港区芝1-4-9
Tel 03-3454-1105
Fax 03-3454-6559
直接、連合通信社に

阪神大震災見舞 献血のご協力を

一月十七日に発生した阪神大震災にあたり、被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。液が不足する事態も派生しております。沢山の献血が必要ですので、どうか献血にご協力下さい。

同時に血液疾患の患者さんにも輸血用血液が必要となります。同時に血液疾患の患者さんにも輸血用血液が必要となります。同時に血液疾患の患者さんにも輸血用血液が必要となります。

心からのご寄付を ありがとうございました

12月21日～1月18日まで

阿原一良	現金	35,000
藤本スガ子	現金	10,000
寺田孝一	現金	500,000
新城ライオンズクラブ	現金	171,900
江澤和貴	現金	2,000
大西亮	現金	5,000
山田千春	現金	5,000
榎原法夫	切手	477
平田武一	現金	5,000
九州骨髄バンク推進連絡協議会本部	現金	69,031
TDK藤城工場及びテクニカルセンター	現金	360,000

(敬称略)

活動資金の援助をお願いします
銀行口座
さくら銀行 新宿支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
全国骨髄バンク推進連絡協議会